

D P Cに係る（特定）共同指導の実施状況及び制度運用の改善について

1 はじめに

D P Cの診療報酬については、平成20年度改定において適切な算定ルール等を導入し、これまで（特定）共同指導において指摘されているD P Cに係る適切ではない例について改善を図ったところである。

2 D P C対象病院に対する（特定）共同指導の実施状況

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
指導した医療機関数	18	20	16	23
うちD P C対象病院	13	20	16	11

※ 平成15～17年度は、D P C制度の新規施行に伴い、D P C算定医療機関を重点指導

※ 平成18年度以降の（特定）共同指導を行う病院の選定は従来の通り

※ 指導の結果、D P Cに係る診療報酬請求の疑義により、監査に移行した医療機関はなし

3（特定）共同指導で明らかとなった適切でない請求例

※ 適切ではないとされた下記請求例は、平成15年度から平成18年度改定時のD P C診療報酬請求点数表に基づくものであり、必ずしも現在の基準で判断されたものではない

※ （特定）共同指導において、医療技術参与と共に指導を行った結果、主治医が認めた事項である

(1) D P Cのコーディング等について

適切でない請求例

1) 包括評価部分を最大化する

A 不適切なコーディング（いわゆるアップ・コーディングによって、診療報酬点数が高くなるものを選択する場合や、誤った請求により本来の請求額より下がってしまう場合もある。）

○ 「医療資源を最も投入した」とはいえない傷病名でコーディングしている。

① 正しい診断に基づかない傷病名でコーディングされている例

・ 内軟骨腫とすべきところを、骨腫瘍と選択 等

② 複数の疾患を有している患者に対して、医療資源を最も投入したものと異なる病名でコーディングされている例

・ 不安定狭心症とすべきところを、慢性腎不全と選択 等

③ 「副傷病」の選択を誤ってコーディングされている例

・ 敗血症の副傷病があるにもかかわらず、「副傷病なし」と選択 等

④ 「手術・処置等」の選択を誤ってコーディングされている例

・ 体外ペースメイキングを行っているにもかかわらず、「なし」と選択 等

○ 特定入院期間超過後の手術による「手術あり」コーディングされている

・ 切迫流産で入院、特定入院期間を経過した後に実施を決定した子宮頸管縫縮術をもって「手術あり」とコーディング

2) 包括評価されている項目の出来高請求

B 一連の入院中に他医療機関で実施

- D P C入院当日に他院で MRI、PET を実施
- 入院中の他院受診を対診扱いせず、他院から出来高請求されている例
 - ・ 他施設にて PET 検査を行う際に、入院したまま他院で PET 検査をせずに（この場合の診療報酬は、入院中の病院から検査を実施した病院へ合議の上で支払う）、一時退院にて PET 検査（他施設にて出来高請求）を受け、退院日の翌日に再入院させる

C 出来高評価される算定項目として取り扱う

- 術後に病棟で行った点滴等、手術にあたって使用された薬剤以外の薬剤を手術で使用した薬剤として出来高請求されている例
 - ・ 麻酔前投薬としてではなく、不眠治療のため主治医が投与した睡眠剤を出来高請求 等

(2) 再入院について

適切ではない請求例

D 入院期間のリセット（より点数の高い入院期間 I の入院に戻す）

- 退院後、極めて短期間で予定入院としている例
 - ・ 前立腺癌の術前血糖コントロール目的で入院し、退院翌日に手術目的のため再入院している 等
- 包括評価対象外の病床との間で転棟を繰り返している例
 - ・ パーキンソン病にて療養病棟入院中に尿路感染症を発病したため一般病棟に転棟、特定入院期間限度で療養病床に転棟、その 3 日後に再度一般病棟に転棟している
- 医育機関と関連病院、本院と分院との間で転院を繰り返している例
 - ・ 患者が一度も帰宅することなしに、術前検査から手術実施までの期間、関連病院との間で転院を繰り返す

4 対策

- ① D P Cにおける診療報酬明細書の提出時に、包括評価部分に係る診療行為の内容が分かる情報も加える（平成 21 年 1 月診療分より実施予定）
- ② 適切なコーディングに関する委員会の設置
院内で標準的な診断及び治療方法の周知を徹底し、適切なコーディングを行う体制を確保するため、医師、薬剤師及び診療情報管理士等から構成する委員会を年に 2 回以上開催
- ③ 同一疾患（M D C 6 桁分類が同一）での 3 日以内の再入院（病棟間の転棟に伴う再転棟も含む）については、1 入院として取り扱うこと
- ④ 4～7 日以内の再入院については、今後引き続き調査・検討を継続すること